

第2回次期県民運動検討委員会 議事録

○日時 平成27年8月4日(火)

13:30~15:30

○場所 ふくしま中町会館6階南会議室

【議事】次期県民運動のテーマ等の検討について

【丹波委員長】

- ・まず、第1回検討委員会で各委員より説明要請のあったことについて、事務局から説明をお願いする。
- ・第1回検討委員会でさまざまな御意見をいただいた。それを事務局においてまとめていただいているので、資料1について併せて説明をお願いする。

《前回各委員より説明要請のあったこと及び資料1について事務局説明》

参考資料1：県民運動の成り立ちについて説明

参考資料2：新“うつくしま、ふくしま。”県民運動の成果等について説明

参考資料3：県の施策と重ねられる資料（福島県総合計画、福島県復興計画）について説明

資料1：第1回次期県民運動検討委員会（意見の整理）について説明

《御欠席委員のからの事前意見について事務局読み上げ》

【石井委員の御意見】

- ・県民運動のテーマは「健康」又は「健康長寿」
- ・理由としては①県民に関心をもってもらえるように、わかりやすく、参加しやすいテーマが望ましい。②県民個人自らが参加して、その成果を体感できるテーマが望ましい。③県民が前に進めるような、明るいテーマが望ましい。④原発事故により、県民は健康に対する関心が高まっていること。

【齋藤千恵子委員の御意見】

- ・県民運動のテーマとしては、「地域づくり」と「健康づくり」をテーマにしたいと考える。
- ・理由としては

《地域づくりについて》

- ①震災と原発事故により荒廃した福島県を県民全体で新しい福島県を創造する力強いイメージが湧くから。

②核家族化が進み、夫婦のみの世帯や一人暮らしの世帯が今後ますます多くなることを踏まえて、個人同志の繋がりや多世代の繋がりが高まることによって、人と人とが共に助け合って地域で頑張る気持ちを持てるような内容のテーマにすると生活に安心感が持てるから。

《健康づくりについて》

①死ぬまで住み慣れた地域で、元気に自分らしく生きることがあらゆる階層の人が望むものだから。

②東京オリンピックの開催などもあり、健康やスポーツに県民の関心もこれまで以上に高まり、日本国中が健康問題、健康志向になることが想定され誰もが主体的に取り組めるので県民運動のテーマに適するものとする。

《その他御意見》

- ・高齢者同士のお茶飲み話の中に福島県民運動のことばやキャッチフレーズが話題にのぼるような、身近で覚えやすく親しみの持てる県民運動にしていくことが必要だと考える。
- ・明るく前向きで努力し続ける福島県民を強く印象付けるものを運動の中に加えていきたいと考える。

【丹波委員長】

- ・ただいまの説明に関して御質問はあるか。
(質問なし)
- ・本日は、先程、事務局から説明があったが、課題や目指すべきものを踏まえながら具体的なテーマ案をまとめたいと思っているので、御議論いただきたいがいかがでしょうか。

【菅野委員】

- ・医療関係者から、福島の健康に関する現状として喫煙率が全国1位、高血圧の治療割合全国3位、脳血管疾患で亡くなる方の割合全国1位、幼稚園から小学校6年生まで全ての学年で子どもの肥満ワースト3であり、高齢者の要介護の割合が高まっていると聞いた。
- ・何が重要かと聞いたところ県民運動として展開するのであれば「健康」を主眼にしていくべきであろうとのことであった。
- ・健康に向けてどのようなことをしたらよいか聞いたところ、スポーツより広い意味で体を動かすことが重要だと言っていた。
- ・震災以降、特に、体を動かすことが少なくなっており、このままいくと福島県の平均寿命が下がる危機感があると言っていた。
- ・こういうことを踏まえると「健康」あるいは「運動」を主題にしていくべきではと考

える。

【大野委員】

- ・ 農業者の立場で発言させていただく。
- ・ 常日頃、食育を中心に活動している。
- ・ その中で子どもたちの食育に関する知識を深めていくことが必要と考え、多方面から活動しており、地域の文化や環境に触れることも必要と考えている。
- ・ 食に対していろいろな知識を持つことで健康へつながるのではないかと思う。
- ・ 「食」は、健康へ一番大きな意味合いを持つのでは。
- ・ 福島は原発災害があり、かなりの人が健康を心配しており、そこにどういった形で県民全体がかかわっていけるか常に考えている。
- ・ 「健康」は一人ひとりが自覚して行動しなくてはならないものなので、高齢者から子どもまで携われるものではないかと思う。
- ・ 「健康」に関していろいろな詰めて行ければいいのでは。

【丹波委員長】

- ・ 食育が健康増進だけでなく文化や環境に触れていくという話があったが、その辺はどのようなものか。

【大野委員】

- ・ 地元で作っている食材を知ることによって、子どもたちが地元の料理や地元で作られているもの、昔から伝わる料理を知ることが必要。
- ・ 地元と密着した学校給食に携われるように様々な分野で活動している。
- ・ 福島県は栄養教師の人数が少ない、その辺も含めて子どもの知識を深めていくのが大切ではないか。

【加藤委員】

- ・ 浜通りに限らず地域コミュニティが崩壊しているなか地域コミュニティが戻るにはどうしたらよいか。
- ・ 皆さんの、健康等の御意見それぞれ大切なテーマだと思っている。
- ・ 政治に関心持ったのは、国が何をしてくれるかではなく、自分が何をできるのか。そこから考えなさいという考えから。
- ・ 県や町が何をしてくれるかではなく、自分たちがこの県をこの地域をどうしていくかが大切。
- ・ NPO 活動とか具体的に積極的に活動するいい時代になった。特に震災以降活発になってきた。そういう意識ある団体と交流できたらいいと考える。

- ・町村会として意見を集約して会議に臨んでいるわけではないが、次回以降はその辺りも含めて臨みたい。

【丹波委員長】

- ・県民一人ひとりの行動や取り組みを通じて、地域づくりをしていってはどうかということかなと。
- ・具体的なテーマに関してこの辺を深掘りしていった方がいいとか、他にテーマ案があればいただきたい。

【森合委員】

- ・テーマを決めるにあたり次期県民運動としての目標（目指すべきもの）をどのように設定するか考える必要がある。
- ・テーマや推進方策は、県民一人ひとりの行動例の提示として捉えないと活動範囲や内容は多岐に渡り、どれが優先的というものもない。
- ・目指すべきもの（目標）をある程度固めたうえで、テーマは目標達成のツールであるから、ツールの例示として県民一人ひとりの行動例として提案していくという整理の仕方をすればわかりやすいのでは。
- ・これを踏まえてテーマを考えると「健康」というのがあるが健康長寿に向けて大切なのは食、運動、睡眠の3要素。
- ・来年、食育推進全国大会もあることから、「食」というのは非常に幅広い基礎になる部分。
- ・食と運動。運動にはスポーツも入るが、アスリートだけでなく平日頃から体を動かすのが大切。
- ・健康であることを前提として、「健康長寿」もテーマとして成り立つが他に2つ考えたものがある。
- ・ひとつは、一人ひとりが福島のを県内に来た人に「伝え」、県外に行ったときに「情報発信」していくことが非常に大事である。復興のステージも日々変わっていることからその辺を意識しながら伝えていったらよいのでは。
- ・さらに、今後、人の流れが活性化していくので、地域活性化、地域づくりとも関連して、「交流」、「人材育成」を活発化することによって、一人ひとりの課題解決力が高まっていくのではないかと。
- ・そういうことをテーマとして設定していくのがよいのでは。
- ・あくまでテーマはツールであり、目指すべきものは復興のステージステージで、自分の課題として身近で継続的な取り組みとして、未来に実を結ぶように繋いでいくというのが大きな目標なのではないかと。

【丹波委員長】

- ・ 目指すべき方向性を共通の認識としていくべきではないかとの話があった。
- ・ 事務局がまとめた資料1からいうと、「県民一人ひとりの幸せ」「心の復興」「夢や希望」などが前向きなイメージかと思う。
- ・ 加藤委員から地域づくりの話もあった、こういうことを通じて地域がよくなっていくというのもあるのかなと感じた。
- ・ 共通認識は大前提として、これでよろしいかということを確認した方がいいかな。
- ・ 齋藤千恵子委員から茶飲み話で話題にあがるようなわかりやすさが必要という御意見があったが、それくらい県民にストンと落ちていくような目指すべき方向性があれば御意見いただきたい。

【増子委員】

- ・ 「健康」は障がいのあるなしにかかわらず、共通するものでもあり大切。
- ・ 障がいのある方は、同じ運動はできない。NHKのラジオ体操でも立っている人と座っている人がいるように工夫が必要。
- ・ 「食」に関しても自分で管理できる方ばかりではないため、周囲の方が情報を持って支えてくれるような新聞・マスメディアを通じた情報発信が必要。
- ・ テーマを決めた後、一緒にできるもの、もしくは少し変えたものというように障がいのある方へはサポートが必要であると思った。
- ・ 話は変わるが、食育というフレーズがあったが忙しい人はあまり料理をつくる機会がない、野菜コーナーに健康レシピを置く等したらよいのでは。
- ・ これが健康にいいとTVでやるとすぐ売れてしまうように、健康へは関心が高い。
- ・ 福島ブランドのレシピを含めて健康につながるようなものを進めると、障がいのある方が積極的に取り入れるような状況にも繋がるかもしれない。スーパーなどにレシピがあれば、他の地域から来た人が目にするというようなイメージを膨らませていた。
- ・ トータルすると「健康」というテーマが一人ひとりの幸せに繋がり、原発災害の影響を受けて健康へ不安を持っている人の不安も払拭できるし、健康であればこういうことがしたいといった夢や希望も膨らむと思うので、すごく良いテーマであると感じた。

【花見委員】

- ・ 「健康」は、重要なものだと思う。
- ・ 目指すべきものではなく項目の一つとしてお話するが、福島県はガン検診受診率50%を目標に掲げて施策を展開している。子宮ガン検診のセミナーをしたときにドクターが、今の学習指導要領にはガン検診という言葉はないと言っていた。いろいろ働きかけがあって数年後には記載されるのではないかという状況。そのくらい日本全体がガンに対する考えや備えが他の国より低いという話であった。

- ・例えば、そういう意味での先進県を目指すとか。福島県の復興より高位の位置で子どもの中からガン検診への教育をして、そういった目標を掲げて進んでいくのもあるのかと。
- ・県の施策にはいろいろあるが、福島は教育後進県と言われる側面もあるので、「人づくり」「教育」ができるような項目があるといいのでは。

【丹波委員長】

- ・目指すべき方向性として、県民運動の歴史的な経緯もありながらというのもあるが、マイナスをゼロにする取り組みだけでなく、さらに一歩進むような「夢や希望」という言葉に象徴されるのかもしれないが、そういう前向きな方向性があったらいいと個人的に思う。
- ・新しいことをやればいいということではなくて、元々福島県にあった良さが強みになっていく気がしていて、総合力といったものが重要ではないかと最近感じている。

【新城委員】

- ・「健康」は、福島県の誰しものが考えているものなのでテーマとして素晴らしいのではないかと思う。
- ・「健康」は、全てのものに繋がっていて、運動や食文化、食育等あるが、「心の健康」が、非常に大切ではないかと考えている。
- ・「誇りある健康」というか、健康は健康でも何かをプラスのものを付け加えてできないかと思う。

【丹波委員長】

- ・スポーツと運動はどうなのかという議論もあるが、誰かがぬきんで良いというのではなくて、県民一人ひとりが前向きになって底上げされていくというか、そういうのが県民の幸せ、心の復興に繋がるのではないかと思う。

【菅野委員】

- ・長野県は県民運動として減塩等いろいろな取り組みで健康日本一を成功している。
- ・レベルの高いところに目標を設定しないで、身近なところの取り組みで成功している。
- ・他県の良い事例を研究するのもいい。
- ・先程、森合委員が問題提起したが目指すものを明確にした方が進みやすいのでは。

【丹波委員長】

- ・事務局としては、目指すべき方向性は、一つのワンフレーズみたいなものになるのか、若しくはキーワードが3つ4つ並ぶ形になるのか、どんなイメージなのか？

【篠木局長】

- ・次期県民運動検討委員会設置要綱第1条にある、「県民の生活をさらに活力あるものとしていくため」という目的があり、参考資料の福島県総合計画の基本目標である「夢・希望・笑顔に満ちた新生ふくしま」が目指すべきもの、基本目標はここではと考えている。
- ・県の総合計画の目標でもあるが、県民、企業、各種団体等が連携して取り組んでいくのが県民運動なので目標、目指すべきものはここではないかと思う。

【丹波委員長】

- ・福島県総合計画の基本目標である「夢・希望・笑顔に満ちた新生ふくしま」が今回の目指すべき方向性を包含しているのではないかということか。

【森合委員】

- ・福島県総合計画の基本目標は、あくまで県、行政としての目標なので、県民運動の目標、目指すべきものは別に身近なところで設定しないと抽象的になりすぎるのでは。
- ・新“うつくしま、ふくしま。”県民運動では、「地域のきずなを強め、互いに支え合う良好な地域社会の形成」が目指すべきもの、基本目標であったと理解している。
- ・「夢・希望・笑顔に満ちた新生ふくしま」は、あまりにも抽象的すぎるので絞っていった方がわかりやすいのでは。

【新城委員】

- ・新“うつくしま、ふくしま。”県民運動では「地域コミュニティの再生」がテーマであったと理解してよいのか？
- ・我々が今考えているテーマは、この「新“うつくしま、ふくしま。”県民運動」のパンフレットにある「地域コミュニティの再生」の部分にあたる部分ということか？

【丹波委員長】

- ・この辺の整理を1度してもらった方がよいかと思う。

【鶴見課長】

- ・「新“うつくしま、ふくしま。”県民運動」は、基本テーマと重点テーマがあり、基本テーマにあたるのが「地域コミュニティの再生」、重点テーマが「安全で安心な地域づくり」「子育てしやすい環境づくり」「環境問題への対応」であった。それに合わせて取り組んだものである。
- ・さらに上位の目標は、「地域のきずなを強め、互いに支え合う良好な地域社会の形成」

というものであり、「100年後もいきいき…」というのはキャッチフレーズという位置づけであった。

【森合委員】

- ・ きちりした文言でなくとも目指すべきところを委員の共通認識として設定して、その方法論としてのテーマであるので、整理した方が議論しやすいのでは。

【鶴見課長】

- ・ すごくきれいな言葉や格好良いものでなくとも、単語とかフレーズでもいいのではと
思っている。

【丹波委員長】

- ・ 県民運動ひとり一人が自分たちの目標としていけるような共通の認識を確認していければ。
- ・ 「地域のきずなを強め」というのは震災があってできたのか。

【森合委員】

- ・ 平成20年度に策定したときに既に地域のきずなは福島県が持つ良好な部分というのがベースにあり、震災を踏まえて計画を見直したはずで、その時に地域のきずなは改めて再評価され、震災以降も基礎に据えて展開していこうということになったはず。

【鶴見課長】

- ・ 震災前に総合計画に合わせて見直しをかけた。森合委員のおっしゃったとおり最初から「地域のきずな」というのを非常に重要視して取り組んでいた運動であることは間違いない。

【丹波委員長】

- ・ 健康というのはひいては「心の復興」や「一人ひとりの幸せ」になるのでは。
- ・ 目指すべき方向性としてこれであれば、皆一致して各団体でやっていこうと思えるような目標があればいいと思う。

【菅野委員】

- ・ 健康を広く捉えて、「元気」という言葉はどうか。

【丹波委員長】

- ・前向きというイメージもある。「元気」というのはいい。
- ・人も地域も元気になるようなイメージ、人だけでなく地域も元気にならなくてはならないと感じる。
- ・これは、具体的な取り組みに係わるのかもしれないが、健康、スポーツという部分での人、人づくりや教育といった話もあったが、元気になっていかななくてはならないし、地域も元気になって復興していかななくてはならない。

【森合委員】

- ・一人ひとりが、挑戦していくという部分が必要なのではないか。

【篠木局長】

- ・県としては「ふくしまからチャレンジはじめよう。」という言葉を使っている。

【丹波委員長】

- ・元気、チャレンジ、人も地域も一緒にやっていく、一歩前に飛躍していくイメージ、あたりが共通項的には大筋であるかと思われる。

【篠木局長】

- ・「いきいきとした」「活力に満ちた」とかも福島県総合計画にある。

【丹波委員長】

- ・それにも通じるという感じですかね。

【篠木局長】

- ・丹波委員長がお話されていたのが目標、目指すべきもので、「地域コミュニティの再生」の部分が今話しのあった「健康づくり」等が入るのかと思う。

【丹波委員長】

- ・ちょっと不安に思っているのは、健康は一般論としては大切で県民の健康が損なわれる状況としてあるわけで、その中で取り組みとしてどうやって落とし込んでいかるところ。
- ・これまでの県民運動で防犯とかゴミ拾いとかきれいにするとかあったが、みんなで行っていくときに果たしてスローガンを掲げてうまくいくのか。
- ・健康づくりを前向きにやっていくのに、それがいい悪いではなく、もう少し具体的な取り組みとして落とし込みやすいとイメージしやすいのではないかと思う。

【花見委員】

- ・みんなが参加できるようなイメージだと思う。

【丹波委員長】

- ・ある程度共通した目指すべき方向性が認識できたかと思うがそれに向かってどうするか具体的なテーマとして事務局でまとめた資料1に加えて、さらにあればお願いしたい。
- ・食を通じた文化とか地域というのも大切だと思う。
- ・被災地では、祭りが大事な象徴だったり、よりどころになっていてそういう文化を大事にしていくのはすごく必要であると感じている。
- ・新潟中越地震のとき山古志村が神社を一番に作ったのが象徴的。
- ・皆の心のよりどころになっていくような文化的なものを、福島県全体として考えられればいいと思う。
- ・単に伝統的なものだけでなく新しい文化、フラガールズ甲子園やなみえやきそば等、そういったものが人々の繋がりをつくっている。そういった新しい取り組みも新しい文化の形成に繋がるのでは。
- ・震災から5年目を迎えて状況がそれぞれ変化してくると、向くべき方向性がお互いどっちを向いているのかわからなくなってくる。足並みを揃えるという、そういう共通の認識を深めていくという意味でも、新しい文化の創造と発信とかに繋げて行けるのでは。

【菅野委員】

- ・広げすぎるとかえってわかりにくく、取り組みにくくなるのでは。
- ・文化的な部分を考えるにしても健康に関する文化的なものを考えていくべきでは。

【丹波委員長】

- ・地域が生き生きしていくというもののひとつに文化もあるのかなと。
- ・確かに総花的になりすぎると何をしたらよいかかわからなくなる。
- ・他に御意見あればお願いします。
- ・今日は健康に意見が集中している。

【齋藤美佐委員】

- ・みなさんの御意見は至極もったもかと思う。
- ・福島県の納豆消費量が全国1位というのは、素晴らしいことだと思う。発酵食品を全国で一番食べているのは凄い。それだけ健康思考が強いということだと思うので健康に対する意識が各家庭の食卓でしっかり裏付けられているというところに着目するな

らば、「健康」というテーマはあると思う。しかし、「健康」といっても広げすぎるとなかなか取り組みにくいと思う。

- ・ 県民運動は身近に楽しくできないといけないと思う。食卓から健康を作っていくならば1年目食文化に力をいれて、2年目運動に力を入れる等、わかりやすいテーマの設定を段階的にして、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて楽しく一人ひとりが取り組めるものをわかりやすく表現していくのがいいのでは。
- ・ 長く言い続けていくことで完成されていくのが県民運動だと思うので、継続性を持って段階的に楽しく進めていきたいと思う。

【本多委員】

- ・ 「夢・希望・元気」という言葉は、語呂がいいなと感じた。
- ・ 最初から「健康」ということが中心に出ていたのは間違いない。
- ・ 目指すべき方向性は、皆さんの意見がとんでもない方向を向いているわけではなく、表現の仕方が違うだけで一定の方向に向かっていていると感じた。それでいいと思う。
- ・ スポーツだけでなく幅広い運動、「運動」と「県民運動」紛らわしいので表現方法を考えていけば「健康づくり」といったものを幅広くやっていけるのでは。
- ・ 「健康づくり」といったものを「心の健康」も含めてさまざまな展開ができるのではと思う。

【丹波委員長】

- ・ 方向性は、間違っていないし、みんな同じ方向を向いているそれをどう表現するか。
- ・ 県民一人ひとりが夢や希望を持ちながら、元気なというか、健康をどう表現するか。

【本多委員】

- ・ 「健康」という言葉を使わなくても「健康」といったものは表現できるのでは。健康でなければ「元気」にはなれないという捉え方をすれば、無理して「健康」という言葉を使わなくてもいいのではないか。
- ・ テーマを具体的進めていくためにはどうするのかといったところに食を通した健康づくりや、スポーツを通した健康づくり等の取り組みがあればいい。
- ・ 例えばですが、「夢・希望・元気」という言葉に包括されるのでは。
- ・ 「夢・希望・元気」は気に入っているが、もう少し前であればよかったが、復興といったものから一歩出てというところを考えると、「夢・希望・元気」は震災後すぐに出てきそうなイメージで、良い言葉だが少し遅いかなとも思う。

【増子委員】

- ・ キャッチフレーズのイメージか？

【丹波委員長】

- ・ キャッチフレーズはゆくゆく考えていければ。
- ・ むしろ、目指すべき方向性としての御意見。

【増子委員】

- ・ 「健康いきいき笑顔で元気」全部入れるのはどうか。
- ・ 一般的にはわかりやすく、行政的でない。一県民と同じ目線で見たらすごくわかりやすいのでは。
- ・ その中には、食文化や運動といったものが繋がると思う。
- ・ 運動はやる人しかやらない。
- ・ 「健康いきいき笑顔で元気」に全部入れて、その中に3つぐらいに分けたらいいのでは。

【丹波委員長】

- ・ ここでスローガンのものを決めるのは難しいので、委員長判断として事務局と相談させていただきたい。
- ・ 大筋皆さん共通理解となっている。そういったことを踏まえながら、元気、楽しくといったことを盛り込んでいきたい。

【森合委員】

- ・ 確かに長野県は平均寿命男女とも全国1位というデータがある。日常生活に制限のない期間いわゆる健康長寿では男性6位、女性17位となっている。
- ・ 健康長寿では、愛知県が男性1位、静岡県が女性1位というデータがある。
- ・ 目指すのであれば全国1位の健康長寿を目指していくべき。
- ・ 健康でいきいきと活動できて、わくわくできるのが大事だと思う。

【花見委員】

- ・ 西会津町の取り組みで国民健康保険料が確実に下がっているものがあり、事例は県内にもある。
- ・ 新聞記者の感覚からいくと夢とか希望は、新味性がないというか、根底にあるものなのでなるべく使わない。
- ・ 誰でも使える言葉は平易な感じなので、使わなくても表現できるようなものが良い。

【丹波委員長】

- ・ 御意見としては、「健康」「来て良かったと思えるおもてなし」「情報発信」「人づくり」「交流」等があった。
- ・ 交流は意外と大切である。

- ・山古志村の仮設住宅を支援していたとき、おばあちゃんに大変じゃないかと聞いたところ山古志村ではお茶のみ友達のところにいくのに30分、1時間かかったが、今は5分で行けてすごく嬉しいという発言にはっとさせられた。意外にその中で変化と聞いたものがあるのだなと感じた。
- ・県内、地域、それ以外との交流というのは伝えるという点でも大切だと思う。

【加藤委員】

- ・どこと比べて1位2位というわけではなく、ここにいると何となく落ちつく、安心できるといったイメージ。
- ・震災以降ふくしまというだけで、マイナスイメージで、みんな重く背負っているなと感じている。
- ・県外から支援に来てくれた人から新地の人には負けてない、いきいきしている元気だねと言われた。
- ・その支援してくれた人が、子どもに新地町の人のように元気に育って欲しい、山あり谷ありでも負けないで生きて行って欲しいということで、新地という名前をつけてくれた。
嬉しかった。

【丹波委員長】

- ・凄くよいこと幸福度というか住んでいてよかったなという感じ。

【森合委員】

- ・福島には他の地域にはない自分達では気づかない良さがある。そういうところに「誇り」を持っていくのが大事だと思う。誇りを持つことで自信になって自分から発信していけるし、支えてくれる人へも自信を持って発信していける。
- ・「一人ひとりが誇りをもって元気で挑戦、チャレンジ」のようなのが方向性としてあるのではないかと。

【丹波委員長】

- ・「誇り」は、凄く大切である。
- ・福島県という一番のものはないからと卑下しがちであるが、全体としてみれば、凄く住みやすいところである。

【新城委員】

- ・「誇り」というのが一番大切だと思う。「福島プライド」というような。

【丹波委員長】

- ・「誇り」というのは大事なポイントである。

【森合委員】

- ・祭りや文化にもかかわってくる。

【丹波委員長】

- ・あまり拡散しすぎない方がいいという話もあったので、「健康づくり・文化・人づくり 発信・伝える・誇り・食」とか受け止めて、うまく整理して具体的なテーマ案をイメージづけていくところかと。
- ・課題も「体力低下」とか「健康への関心」とかだと落ちていくところが健康になってしまうので、もう少し福島そのもの、地域そのものの「誇り」の大事さの再確認といったのがあるといいかなと思う。
- ・他に追加的な御意見があればいただきたい。なければ、時間が少しあるので具体的なテーマをどんなふうに進めていくのかというところも見据えながら議論できればと思うが如何か。

【本多委員】

- ・あくまで言葉的にであるが、今までは復興ということで「夢・希望」というお話があったが、「希望」等より、もう創造に入った方がいいのでは。
- ・創造の中にいろいろ包括されていくイメージ。
- ・創り出していくというイメージがあればいいのではないかと。

【丹波委員長】

- ・これも大事なことである。
- ・時間がまだ少しあるので、どんなふうに進めていくのかというところについて話をしたいが、事務局から何かあれば説明いただきたい。

【鶴見課長】

- ・今回は、テーマ案について取りまとめをお願いしたいと思っていたが、今委員長からの話もあったので、テーマ案としては「健康、健康づくり」がひとつ大きなものとしてあって、その他、委員長のお話にもありました、「人づくり・発信・伝える・食・文化」というようなイメージでテーマとして話があがっている。
- ・健康が一番の中心で間違いないと思われるが、その周辺部分として上記のような部分があり、まだ、まとまっていないということを前提として推進方策について資料1で、先程ご説明したところであるが。

- ・ 県民運動の推進方策としては、「県民運動全体を具体的に進めていく推進体制」と「県民の自発的な参加を促す取り組み」との2つがあると考えている。
- ・ 資料1にある「参加することで、直接自分に成果が得られる形」や「2020年東京オリンピック・パラリンピックやその他のイベント等と絡めていく」といった意見は、「県民の自発的な参加を促す取り組み」と考える。
- ・ 直近の「新“うつくしま、ふくしま。”県民運動」においては、運動を推進する主体(推進体制)として、74団体で構成される「新“うつくしま、ふくしま。”県民運動推進会議」を設置していた。あくまで参考である。
- ・ 推進方策として、「県民運動全体を具体的に進めていく推進体制」と「県民の自発的な参加を促す取り組み」について御検討いただきたいと考えている。

【丹波委員長】

- ・ 推進体制や県民の自発的な参加を促していくような取り組みとして、どんなふうに工夫していったらいいのか御意見いただきたいとのことであるがどうでしょうか。
- ・ 推進体制は後で議論することにして、東京オリンピック・パラリンピックについても県内で何らかの催しがある可能性もあるし、そういったことに限らず運動という県民一人ひとりが参画していくような取り組みについて御発言をお願いしたい。
- ・ 石巻では、方言を使ったラジオ体操をしている。そういう具体的な取り組みやすさ参加しやすさ、身近に楽しくできる取り組みとしてのアイデアがあればどうでしょうか。
- ・ 事業年度が東京オリンピック・パラリンピックの年あたりというのもあるのでそこまですべてに向けてと考えたときの取り組みとしても。

【花見委員】

- ・ 県外企業の福島支店長の方の話で、日本酒の3年連続日本一などの福島の新聞の切り抜きを手帳に挟んで、県外出張の際に福島県の良さを紹介しているというひとつの事例がある。そういうのを県民運動として、県民手帳にも書いてあるが、「誇り」を集めて福島プライド100 選みたいなのが仮にあれば、県民がいろんな場面で発信していけるのでは。
- ・ デスティネーション・キャンペーンの後であるが、福島のタクシーに乗ったとき、おすすめの観光スポットを尋ねても、運転手からあまり案内がなくて残念であったという話があった。デスティネーション・キャンペーンの後おもてなし文化が盛り上がったはずであるから、県民一人ひとりが案内できるようなものも県民運動として実施し、福島プライドの発信PRをしていけるのでは。

【森合委員】

- ・ 県民手帳は、非常に重要なツール。例えば愛媛県の県民手帳にはみかんの種類が 3, 4 ページにわたって書いてある。他の場所で自分たちの誇りを説明するときのツールがあると分かり易い。
- ・ 県民手帳がひとつの大きな媒体になりうると思う。

【菅野委員】

- ・ 県民手帳の名称はもう少しスマートな方がいい。

【本多委員】

- ・ 県民手帳を知らない人がほとんどである。

【新城委員】

- ・ 福島プライド100選、食文化、美味しいものがいっぱいあるので、県民にお知らせする。
- ・ 運動の方法やハイキングの場所等も同様に、健康に関係あるものを県民に知っていただいて役立ててもらうのが大事なことである。

【丹波委員長】

- ・ アイディア出しなので自由に御発言いただきたい。
- ・ 実現性というのもあるが、県だけでなく各団体などでいろいろな形で実現して行って、広がっていくことがむしろ大事ではないかと思うので。
- ・ 健康づくり、元気、いきいきといったところを具体的に進めていくにはどうすればいいのか考えているがいかがでしょうか。

【菅野委員】

- ・ 年代にあった目標設定があるといいのでは。
- ・ 身体を動かすのは音楽があるとやりやすいので、音楽を用いた体操などもいいのでは。

【齋藤美佐委員】

- ・ 子ども時代、県民の歌にあわせた体操を運動会でやっていた。最近の若い世代は知らない。
- ・ こういうのが復活すると、県民の歌も浸透するし、歌詞も凄く良い歌詞であるので、そういう草野根的なものもよいのでは。

【本多委員】

- ・他県の人と飲んだとき、カラオケに県民の歌があるのは秋田県と長野県だけであると誇らしげであった。
- ・何か、そういう誇れるものはやはり欲しい。

【森合委員】

- ・最近、ラジオ体操第3，4などが復活している。
- ・福島県特有の音楽等をつかった県民体操等があれば復興への弾みになるのでは。

【齋藤美佐委員】

- ・県庁に電話すると保留の時に県民の歌が流れる。こういう既存のものを大事に継承していくのがいいのでは。

【丹波委員長】

- ・体を動かすということは、具体的に取り組みやすいものとして大切。
- ・具体的に自分たちの成果として得られるようなという視点ではどうか。
- ・今日は、東京オリンピック・パラリンピックやイベントの話はあまりでなかったが、イベント等に絡めてできたらいいなというような御意見はあるか。
- ・東京オリンピック・パラリンピックが決まったとき、新聞記者に関連グッズ等の売り上げの一部でも被災地に行く仕組みができればいいのではと話をした。
- ・経済活動も活発になるだろうから、そういうのが地域に成果として得られないかなと。

【増子委員】

- ・東京オリンピック・パラリンピック関係ではあまり明るい話題がない。被災地を絡めた状況を考えたときに事前合宿の誘致等考えられるが、オリンピックはあるがパラリンピックで手をあげている市町村はゼロ。
- ・障がい者スポーツに対する支援は余裕がないと進まない。
- ・今、東京オリンピック・パラリンピックと言われても、県民はそこまで余裕がないというのが正直なところだと思う。今はその準備段階で、数年後 J ヴィレッジが再オープンしてブラインドサッカーが入ってきて漸く目が向くと予想している。今は準備段階として東京オリンピック・パラリンピックへ向けてひと案もっているのはいいが、現状ではオリンピックはまだしも、パラリンピック絡めるのは非常に難しいと思っている。
- ・パラリンピックという名称は知られてきているが、パラリンピックが軍人のリハビリテーションから始まったという歴史を知っている人は少ない。
- ・声を大にしてパラリンピックに関してしてこうしたいとは言えない。しかし、せっか

くなので県民運動に少し絡めていけたらいいなとは思っている。

- ・福島県は被災3県の中でも障がい者スポーツに対して停滞している状況。いずれは何か絡めれば良いと思う。
- ・資料1にあるような「障がいのあるなしにかかわらず」という言葉が入っているのは非常に重要。県民ひとくりにされると障がい者の方はおいていかれるという不安感がある。
- ・話は変わるが、体操は、年齢によってポップな感じとかダンス的なものとかゆったりしたものとか段階的に違うものがあるのか、共通のものがあるのか。座っても立ってもできる福島健康体操みたいなものがあるか。
- ・地元の野菜で一品足したらバランスの取れるようなレシピがあるか。
- ・ゴミを出すのも一苦労なので、簡素化とか食に関していろいろ工夫できればいいかと。常日頃ゴミがでないようにしている。

【丹波委員長】

- ・レシピの話で、福島はいろいろあるので、この食べ物にはこれがいいとか組み合わせていくということもあるのでは。
- ・次回今日いただいた御意見からテーマをまとめ、推進方策について深めていきたい。